

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 和田 絵梨

論 文 題 目

Flash glucose monitoring helps achieve better glycemic control than conventional self-monitoring of blood glucose in non-insulin-treated type 2 diabetes: a randomized controlled trial

(フラッシュグルコースモニタリング(FGM)はインスリンを使用していない2型糖尿病患者において従来の血糖自己測定よりもより良好な血糖コントロール達成に役立つ：ランダム化比較試験)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

小池 晃彦



名古屋大学教授

委員

丸山 彰一



名古屋大学教授

委員

葛谷 雅文



名古屋大学教授

指導教授

有馬 寛



論文審査の結果の要旨

今回、5 医療施設に通院中のインスリン非使用 2 型糖尿病患者 100 名を対象に、多施設共同非盲検並行群間比較試験を実施した。フラッシュグルコースモニタリング (FGM) を使用する群 (FGM 群) と、SMBG 機器を使用する群 (SMBG 群) に 1:1 で無作為割付けを行い、血糖コントロールに与える影響を比較検討した。12 週間の測定機会提供後、12 週時点では両群共に HbA1c の低下を認めたが、24 週時点では FGM 群でのみ HbA1c の有意な改善を認めた。FGM 群では血糖変動指標の有意な改善を認め、主に高血糖域が減少した。また FGM 群では糖尿病治療満足度質問票 (DTSQ) で示される治療満足度の改善を認めた。これよりインスリン非使用 2 型糖尿病患者に対して FGM による測定機会を一定期間提供することは、測定終了後も持続する糖代謝改善効果をもたらすことが示された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. これまでに FGM の使用により従来の SMBG と比較し、1 型糖尿病患者における低血糖リスクが減少すること、インスリン治療中の 2 型糖尿病患者において低血糖および血糖変動が減少すること、そして HbA1c が低下することが報告されている。しかしインスリン非使用 2 型糖尿病に対する FGM の有用性は今までに報告がなかった。
2. FGM では連続した血糖変動の確認が可能であり、測定が容易で侵襲性が低いことから、患者の満足度が改善したと考えられる。治療満足度の改善は、患者の自己効力感を高め、治療コンプライアンスの改善や生活習慣の改善を促すことが報告されている。本研究ではさらに、食事による血糖値の上昇や運動による血糖値の低下を、FGM を用いて患者自らが視覚的に確認することにより、高血糖の要因を避けようとする行動変容を促し、生活習慣改善に繋がったと考えられる。
3. FGM による持続血糖測定機会の提供は、血糖測定ツールとしてだけでなく、インスリン非使用者を含めた幅広い糖尿病患者において行動変容を促し、初期教育や自己管理のツールとして有用である可能性がある。今後は FGM の食事や運動習慣への影響に関する具体的な評価や、FGM の使用と併用する効果的な学習支援方法について検討している。

本研究は、インスリン非使用 2 型糖尿病患者に対する FGM の有用性について、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	和田 絵梨
試験担当者	主査	小池 晃彦	副査:	丸山 彰一
	副査:	葛谷 雅文	指導教授	有馬 寛
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FGMの現状・既報について 2. FGMによる生活習慣改善のメカニズムについて 3. 今後の展望について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、糖尿病・内分泌内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				